

福島県PTA連合会会報
第104号_H29.12.12

福島県PTA連合会



PTA 福島 第104号

県連P活動スローガン **子と親とが 共に育つ PTA 活動を**

編集：調査広報委員会 印刷：泉印刷所

特集

第65回福島県PTA研究大会いわき大会報告

～子どもたちの明るい未来を共に創造しよう！説得力と誇りある力強い大人の背中です！～



●実行委員長あいさつ

実行委員長
箱崎 洋一

第六十五回福島県PTA研究大会は、平成二十九年十月十五日いわき芸術文化交流館アリオスを主会場として開催されました。「子どもたちの明るい未来を共に創造しよう！説得力と誇りある力強い大人の背中です！」を大会主題に掲げ、「びあ代表矢内廣氏による記念講演、五つのテーマに沿った七分科会を県

内約千四百名のPTA会員のものと実施致しました。現在子どもたちを取巻く環境は日々変化の中、学校と地域、教育行政の連携による教育環境の拡充を図るべく様々な施策や活動がなされております。そんな中私たちが親である大人が再度自分たちの立場を考えられる大会と致しました。東日本大震災より六年間、子どもたちの成長を祈り安全と安心の為に活動してきた私たち福島県の大人だからこそ、誇りある大人の背中をもって子どもたちに郷土愛を伝え、明るい未来に牽引していけると思っています。
今大会開催に際し来賓の方々

第1分科会

組織運営

〈分科会テーマ〉

社会の変化に対応する魅力と活力あるPTA活動

報告者 **菊田小学校 PTA顧問 森 久長**



「小さくても輝く大いなる田舎」をスローガンに「夢を育てる教育」を目指している。村全体が教育に参加する「学園構想」を打ち立て、ボランティアによる活動を通して、地域が育て、育てられる「学びの循環」を構築した。
・広野町立広野小学校

・大玉村立大玉中学校 PTA
「人づくり・地域づくり」を目指して発足した組織である。懸念される、少子化による協力者の減少に伴い、行事削減が考えられるので、事業の継続・活性化のためにも見直しが必要である。

や多くの関係各位にご支援、ご協力をいただきました。このあたたく心強いご支援を、私たちは子どもたちの成長へとしっかりと繋げていくことをお誓い致します。次年度開催会津喜多方の皆さん、頑張ってください。

①提言の内容から

・いわき市立田人小・中学校父母と教師の会

「地域と共にある学校」を目指し、学校経営・運営への関わりから、農業体験や学校行事、部活動等への支援を行っている。今後は、世帯数の減少の中、効果的な支援の方法を模索していきたい。

・田村市学校支援地域本部代表

「人づくり・地域づくり」を目指して発足した組織である。懸念される、少子化による協力者の減少に伴い、行事削減が考えられるので、事業の継続・活性化のためにも見直しが必要である。

PTA

学校、家庭、地域のために「できることから」を合言葉に運営しているが、さらに、積極的にPTA活動に取り組めるよう工夫していきたい。

②グループディスカッションから四名の発表を受け、参加者による様々な意見交換がなされ、以下の意見がだされた。

・保護者が参加しやすい環境づくり
・地域の特色を生かし、子どもを中心にといった活動が学びの場を提供してくれる

③コーディネーターのまとめ

計画の段階から学校、地域の双方で行うことで、学校の必要性和地域のスキルをマッチングさせることが可能。これは、地域との協働を進め、各地域の特色を生かした、できることから進めていくことを確認できた分科会でした。

もくじ

第65回福島県PTA研究大会いわき大会報告	
実行委員長あいさつ・第1分科会	P 1
第2分科会・第3分科会	P 2
第4分科会・第5分科会	P 3
大会レポート	P 4
第23回母親代表懇談会	P 5
事務局からのお知らせ	P 6

大会報告

～子どもたちの明るい未来を共に創造しよう！ 説得力と誇りある力強い大人の背中で！～

第3 分科会

家庭教育

〈分科会テーマ〉

今、必要な親の背中

報告者 玉川中学校 PTA会長 柴田 春夫



◎講演内容

①問題提起の内容
「いわき市における土曜学習」の実践から、子どもたちが主体的かつ有効的に時間を使っている同時に、地域・学校・家庭が連携し、より豊かな教育環境を提供し、子どもの「生きる力」をのばすことに成果を上げている。

・郡山第七中学校
PTA・学校・地域との交流を図る「サポーター会議」の実践から、PTA・学校への係わりが薄くなってきた中、負担軽減を図りながらも積極的な活動を促すべく子どもたちを中心とした「共同作業」等を取り入れ、会員の意見交換や相互交流の活動を行った。

②話し合いの中から
子どもたちの健康や安全を守るため家庭でできる事。
・原発問題から、差別や虐めなどについて家庭で話す機会を作る事が重要。
・体力の低下が気になる中、食事の偏食を無くす事が家庭では大切と思う。

○今、学校と家庭、地域が連携し取り組まなければならない事。
・地域の伝統を大切にしその中で地域との関係性を子どもたちを中心に作り上げていく事が大切と思う。

・先生とのコミュニケーション作りが大切であり、情報の共有、共同作業が必要。
・生徒会・PTAが合同の会議を開き、子どもたちと目線を合わせる必要がある。

③まとめ
・地域・家庭・学校が連携し活動する親の姿を見せる事はとても大切な事である。
・子どもたちがすべての事に意欲を持って行動し学び、考える力を生み出す環境作りが必要と思う。今後さらに地域交流が必要不可欠な時代へとなっていく。
・ワールドカフェ型を取り入れ、さらにグループを変える事により会員が主体的に話し合いに参加しリラックスした雰囲気の中で、活発な意見交換が出来た。

第2 分科会

研修活動

〈分科会テーマ〉

資質の向上と活動の広まる研修活動

報告者 いわき市PTA連絡協議会母親委員会 委員長 大泉 きよみ



◇実践発表の内容から
母親委員会では家庭内の教育力向上を目指し、年間テーマを決めて研修の機会を設け、親としての自分育てに取り組んでいる。研修会の中で最も有意義な時間が、講演後の意見交換であり、親としての悩みや喜びを共有して、子ども達に本気で向き合う家庭のあり方を学んでいる。

◇各学校での研修活動の状況と課題
・親子セミナーや教育講演会等を計画するも顔ぶれはいつも同じになつてしまう。
・研修の内容は、SNSや食育、レクリエーションを取り入れたもの等がある。

◇研修活動を活性化させるための工夫
・誰のために、何のために研修するのかを伝える。
・保護者が必要としているニーズを把握し企画することが大事である。
・子どもと一緒に参加できる研修の場の設定を工夫する。
・父親のためのセミナーを懇親会を交えて行えば、多くの参加者が期待できる。
・参加者を募る場合の方法として、文書だけでなく、メールの使用もよい。

◇今、PTAとして必要な研修は何か。
・メディアとは切り離せない問題なので、SNSの講演会を開催する必要がある。

◇まとめ
・若し保護者に、PTA活動内容を周知徹底するための場の工夫。
・研修会の形としては講演会、グループ討議、体験学習、シンポジウム等、より良い方法を見つければよい。
・少子化、核家族化、SNS等、社会環境の変化により悩む保護者に、少しでも寄り添える研修であればよい。
・今回の研修を各単Pに活かしてもらい、PTA活動を含め子どもと向き合い、子育ての時間を大切にできるPTA活動でありたいものである。

特集

第65回 福島県PTA研究大会いわき

第5 分科会

特別支援教育

〈分科会テーマ〉

特別な支援を必要とする子どもたちへの理解とPTA活動

報告者 **好間中学校** PTA会長 **飛田 国洋**



①提言者
いわき市立草野小学校 校長 吉田 幹男氏
「みんな友達なんだ」これは、草野小学校と、福島県立聴覚支援学校との交流・共同学習でのスローガン。今年で三十九年になる交流だ。昨年より障害者差別解消法が施行され、インクルーシブ教育への理解がさらに重要になっていく。今、障害のある子どもと障害のない子どもが同じ場で共に学ぶことを求められている中、両校は、ごく自然に交流・共同学習に取り組んでいる。障害のある子どもは決して特別な存在ではなく、一緒に活動する仲間であると感じ、共に助け合って学習することで相手を思

いやる人間性の育成の一助にもなっている。その中で常に相乗効果が得られる展開を考えて指導している。

②提言者
県立会津支援学校 PTA会長 安藤 美幸氏
平成二年に通学制知的障がい特別支援校として開校。平成二十八年度からは「ボランティア学習会」を開催。同年代の皆さんに障がいのある子どもたちのことを正しく理解してもらい、より身近に感じ、関わりをもつきっかけになって欲しいとの思いから始める。内容は、親が受講生と同じ目線で話しをする少人数のグループワーク形式。参加者からは『教科書や講義では

解り得ないであろう話しが聞けた。『障がい者も不自由なく生活できる会津になるよう貢献したい』などの意見が寄せられ『地域で共に学び共に生きる』共生社会を目指し親から発信していく大切さを改めて感じた。共に日常的に交流ができ、困った時、必要な時に支え合える。違いを認め、違いを楽しむ。専門知識以上に必要なのは、友だち（ひとりの人）として関心をもち、つきあい方を学ぶ。その姿勢が大切なのだ。

提言者の発表後、コーディネーターの松崎氏の采配により3、5人程度の少人数グループに別れ活発な意見交換が交わされた。とても有意義な分科会であった。

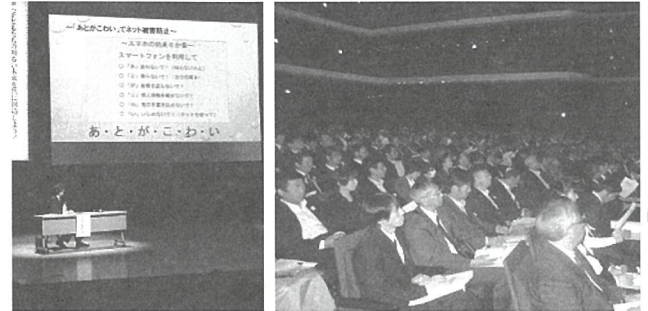
第4 分科会

健全育成

〈分科会テーマ〉

メディアと正しく向き合う家庭・地域・学校

報告者 **四倉中学校** PTA会長 **根本 弘樹**



◇提言者の内容から
提言者より実際の講習会の一部を再現していただきました。特に、講習会の要請依頼後に受講者の傾向や重点的な課題を事前に確認し、要望を講演内容に反映させて講習会を行っております。

終了後には受講者からアンケートを回収し、『SNSの怖さ・依存に気をつけたい』等のご意見をいただき、以後の講習会に役立てているとの発表がありました。

◇グループ討議 一部抜粋
〈各家庭における子どもたちのメディアの活用状況をとらえ、

その危険性に対応する方法
各小中学校ではスマホ教室は行っているが、各家庭でルールを決めて使用させるべきではないか。
郡山ではメディアセレクト／白河ではノーメディアデー（TV含）等を実施しており、毎週水曜日に地区内に放送を流し実施している。

◇メディア社会で生き抜く子どもたちのためにできる家庭・地域・学校
・幼・小・中・地域全体で勉強会を実施しており、子供達が成長しても自然に受け入れられる環境がある。今後は警察

官等の協力を得てコンプライアンスの指導も必要だと思ふ。子どもたちが自ら目標を決め実行できるように保護者もメディアについて考え、子どもたちのリテラシーを見極め機能制限を解除する等各家庭での取組みが大事。

●まとめ
情報端末の必要性を家庭内で話し合い、フィルタリング活用や家庭／地域／学校／PTAが連携し、子どもたちにモラル（日常・情報）を身に付けさせ育んでいかなければならない。

晴れの表彰おめでとうございます

1 文部科学大臣表彰「優良PTA」表彰

- 塙町立塙小学校父母と教師の会
- 新地町立新地小学校父母と教師の会
- 田村市立芦沢小学校 PTA

2 日本PTA全国協議会 会長表彰

◇団体

- 福島市立飯野中学校父母と教師の会
- 二本市立二本松北小学校 PTA

◇個人

- 小林 利明 (H25~26副会長 28~会長)
- 鈴木 辰也 (H25~副会長)
- 渡部 喜典 (H28副会長)

3 東北PTA連絡協議会 会長表彰

◇表彰団体

- 伊達市立伊達中学校父母と教師の会
- 大玉村立大玉中学校 PTA
- 田村市立滝根中学校 PTA
- 小野町立小野新町小学校 PTA
- 郡山市立栢山神小学校父母と教師の会

◇表彰個人

- 福士 寛樹 (H28副会長、校長会代表)
- 金内 貴弘 (H27~28理事、監事)
- 稲本 哲治 (H27~28理事、健全育成委員長)
- 大橋 誠寿 (H25~28総務部長)
- 石川 逸子 (H26~28調査広報部長)
- 江口 隆弘 (H26~27庶務部長、28教師代表理事)
- 庄司 久子 (H28研修部長)

4 第39回

全国小・中学校 PTA 広報紙コンクール

「文部科学大臣賞」

福島市立飯野中学校父母と教師の会

5 平成29年度

福島県 PTA 連合会会長表彰受賞団体

福島市立岡山小学校 PTA

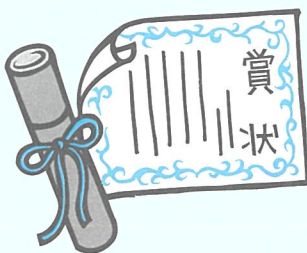
他24団体

6 平成29年度

福島県 PTA 連合会会長表彰受賞者

川村 守夫 (福島市立野田中学校父母と教師の会前会長)

他87名



全国大会レポート

日P研究大会仙台大会 8/25(金)・26(土)

県PTA連合会副会長 菅田 憲 孝

「つなごろうPTA!子どもたちの輝く未来のために」杜の都発! うちのの今を伝えたい感謝の思いとたしかな歩みとともに」を大会スローガンとし、いままでの多くの支援に対する感謝の気持ちを伝え、復興の歩みを伝えるとともに、子どもたちの未来のために、全

「第六十五回日本PTA全国研究大会仙台大会」が八月二十五日(金)・二十六日(土)に盛大に開催され、杜の都仙台に全国各地から約七千三百人のPTA会員、関係者が集いました。隣接地での開催でもあり福島県からは約三百五十人が参加しました。

「つなごろうPTA!子どもたちの輝く未来のために」杜の都発! うちのの今を伝えたい感謝の思いとたしかな歩みとともに」を大会スローガンとし、いままでの多くの支援に対する感謝の気持ちを伝え、復興の歩みを伝えるとともに、子どもたちの未来のために、全

国の会員が心をつなぎ、いっそう絆を深めることを目的としました。一日目は、仙台市内の十か所での分科会。参加した第四分科会では女優の酒井美紀さん、講師に「教育支援」について学びました。日本は、学校の校舎も普通に存在し、義務教育もあり学校制度が確立されていますが、世界を見渡してみると、学校に通いたくても通うことができない子どもが沢山います。そのような中、ベトナムの学校事情について、さらに、南スーダンの紛争下における緊急人道支援の中で「教育支援」は後回しになっている現状

を聞くことができました。二日目の全体会では伊達武将隊、すずめ踊り等、素晴らしい歓迎アトラクションが披露された後、次年度開催地である新潟県によるPRがありました。記念講演では、三宅宏美氏、三宅義行氏親子による「オリンピックへの挑戦(家族の絆で掴んだ父娘メダル)」を拝聴しました。宏美さんはメダリストの先輩である父、義行さんから厳しく英才教育を受けてきたのではなく、ピアノ等、他のことに取り組んでいました。シドニーオリンピックへの感動から自らもオリンピックに出場したいと決意し「途中で諦め

ることなく、金メダルを目指すこと」を条件に義行さんは応援することに。母親もピアノ教室を閉じて、娘のサポート役として本気で頑張りました。この、家族の協力や理解こそが親子でのメダル獲得の支えとなったようです。

多くの仲間と共に、多くの学びや気づきを得ることと共に、今後も子どもたちの為に心一つにPTA活動を行っていききたい。そう思える素晴らしい大会でした。



ちょっと立ち止まって 今を 考えてみませんか？



第23回母親代表懇談会レポート

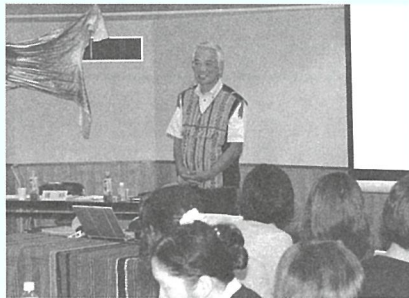
県PTA連合会 母親代表 大竹 妙子

平成29年9月15日(金)、郡山市ミュージカルがくと館を会場に母親代表懇談会が開催されました。講師に NPO 法人シーエスアールスクエア理事長 宍戸仙助様をお迎えし子育てについて講演をいただくとともに、グループ協議を通し研修を深めました。いろいろな地域の方々と貴重な話し合いをし、参加者はとても良い表情でどのグループも時間が足りない位真剣に楽しく取り組み、とても充実した懇談会になりました。

講話
より

「東南アジアの子供達の瞳の輝きに学ぶ」 ＝語り合おう子育てについて＝

講師 NPO 法人シーエスアールスクエア理事長
宍戸 仙助 様



講師 宍戸仙助氏による講話

東南アジアの子供達の貧しくても逞しい暮らしや、学校生活について知り、現地の子供達の瞳の輝くわけから「いじめ問題の解決の糸口」や「人の役に立つ人間になるための夢と希望を育む大切さ」をテーマとした講演をして頂きました。

参加者の声

～講話の感想～

- * 周りを見すぎて合わせてしまう子供が多く自分らしさが無い。仙助先生の講演を沢山の児童達に聞いてもらいたい。
- * 大きな事はできなくてもまずは家族のために思いやりを持ち生活する事は大切。
- * 貧しい生活は聞く事はあるが実感としてない。物の大切さ等を考え生活する事は大事。
- * 知識として自分達が恵まれている事は知っていたが、講演を聞いて実際に現実味が感じられた。
- * 子どもに「何で勉強するの?」と聞かれたら「人の役に立つ人間になる為だよ」と伝えたい。



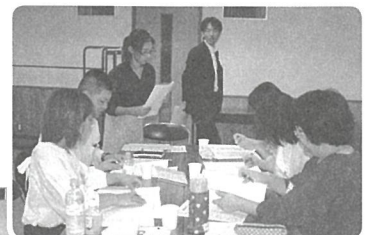
各グループの発表

～バズセッションの様子～

どのグループも携帯電話やラインでのいじめの話が多く聞かれました。

各グループの内容

- * ラインとかでは会話は出来るが、人対人の会話が出来ない子どもが多くなっている。
- * 人との関わりが苦痛に思う子どもも増えている。
- * ライン等は、相手の受け取り方でいじめにもなる。
- * いじめる子は、愛情不足なのでは？



バズセッションの様子



安全互助会から

◎平成三十年度加入のご案内 ～IVコース加入へ～

平成二十五年度から学童の賠償責任補償制度額の上限を一億円としたIVコースが設定され、五年目となる今年度は、全体の八割の小学校からご加入をいただきました。これまでにも、他県において生徒が高齢の方に負傷させ、九千五百万円もの高額な賠償責任を負う事案や本件でも中学生が自転車で高齢の方を負傷させ、示談金二百二十八万円を請求されるという事案、まだ示談に至っていない自転車通学中の事案など発生しております。

このような高額な賠償責任を負う事案が年々多く発生しておりますので、平成三十年度は是非ともIVコース(上限一億円)への加入をご検討ください。

なお、平成三十年度加入のご案内文書は平成三十年一月中旬に各学校へ送付します。加入手続きは、平成三十年四月一日より一年間の補償となるため、三月十二日(月)まで加入申込書を本会宛提出となります。早めに手続きくださいますようお願い申し上げます。

◎保険金請求は面倒がらずに
傷害事故報告書・賠償事故報告書を提出されても、保険金請求を取り下げられる保護者の方がおられます。ぜひ、面倒がらずに請求くださるようご案内ください。



ふるって応募ください

◇子ども災害事故防止習字・ポスター展
実施要項を各学校に送付しておりますが、今一度ご確認いただき、多数のご応募をお待ちしております。

- ・応募締切 平成30年1月末日
- ・作品送付先 県PTA連合会事務局

◇PTA広報紙コンクール

各学校PTAでは、それぞれ特色ある、広報紙を発行されていることと思います。ふるって応募くださいますようお願いいたします。

- ・応募締切 平成30年4月13日(金)消印有効
- ・送付先 福島民友新聞社事業局
「県小中学校・PTA広報紙コンクール係」

年末年始の事故防止を

「ありがとう」

早め点灯 思いやり

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が実施されます。

●期間

平成二十九年十二月十日から平成三十年一月七日まで

●運動の重点

- (一) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止(特に、反射材用品等の着用の推進)
- (二) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (三) 飲酒運転の根絶

編集後記

平成二十五年度から実施してきた、「水俣との交流事業」ですが、今年度をもって終了することとなりました。毎年、子どもたちの真摯な態度やふるさとへ寄せられる熱い思い等に感動し、幕を閉じていたのですが、今年度は、最後と言うこともあり、生徒のみならず関係者にとっても感慨深い交流会となりました。参加した生徒、ひとり一人にとって、この交流会は貴重な財産となりました。数多くのことを学び、そして、成長を遂げたその証をこれからもいろいろな場面で発揮し、さらに飛躍することを願っております。また、実行委員として今まで携わって頂いた方に、あらためて感謝申し上げます。「水俣との交流事業」の休止符を打たせて頂きます。本当にありがとうございました。(次号で紹介いたします。ぜひご覧ください。)

共栄火災

夢を、未来を、
ずっと近くで支えたい。

つながり強化宣言! 共栄火災



サイ吉

人々が気持ちよく毎日を暮らせるよう、安心のチカラでそっと支えるサイ。共栄火災のサイ吉です。